

過去から現在へ 地域文化の継承と変化を繰り返してきた谷山地区

谷山地区は、古来独自の歴史を歩んできた地区です。中世は谷山氏が支配し、現在の鹿児島市北部に勢力のあった島津氏と対峙してきました。谷山氏が退いた後は、島津本宗家や分家なども谷山に入りましたが、それは谷山が薩摩半島南部との接点で重要な地域であり、勢力の拡大や維持に利用してきました。

江戸期には谷山郷として、鹿児島藩の中でも重要な郷の1つでした。山間部では全国でも珍しい錫の採掘が行われ、平野部では新田開発、さらに麓や町人町の街道整備や干拓による土地利用の拡大も推進されました。明治に入っても発展は続き、谷山村は全国有数の人口を誇る村となりました。そして、鹿児島市との関係が深まる中で鉄路や道路、さらには工業地帯の埋め立てなど大規模なインフラ整備も進み、かつての農村地域は住宅地や商業地へと姿を変えてきました。

このような谷山地区の履歴は、現在の文化財の在り方にも大きく影響を与えています。

1. 山の物語

谷山の山間部は、山の麓に暮らす人々を支える資源の宝庫でした。その1つが地下資源として全国でも珍しい錫鉱です。江戸初期に発見され、中断もありましたが採掘は戦後まで行われ、錫山には鉱山遺構が点在しています。

また、山深い山間部では豊富な木材を利用した製鉄も行われていました。薩摩半島各地の海岸部で採取された砂鉄が持ち込まれ、鹿児島藩の近代化を支えた時期もありました。火の河原という地名から多くの人々が従事していた様子が想像されます。

地域を眺望できる山は、信仰の対象として、また人々の拠り所として大切にされてきました。烏帽子ヶ岳の頂上にある神社は今も参拝者が後を絶ちません。

谷山の名の由来は、この地を訪れた神武天皇が周辺の地形から付けたという伝説があり、山の物語が多い点も谷山地区といえるでしょう。

① 錫山鉱山（鉱山関連）

錫鉱は、明暦3（1655）年に八木主水元信^{やぎもんどものぶ}によって発見され、その後幕府に許可を得て、元禄14（1710）年から島津氏が開発に着手しました。入山に関しては厳しい規制があり、多い時には鉱夫が全国から150人集まっていました。現在、鉱内には自由に入ることはできませんが、発見者であ



立神神社

る八木元信の墓や鉾山の神である大山祇神社や立神神社などが地域に点在しています。また大山祇神社には江戸中期から相撲が奉納され、鉾山相撲として知られています。

②烏帽子ヶ岳（修験信仰）

天文年中（1532～1554 年）に島津貴久が修験者の長野武蔵坊に依頼して飯綱大明神を勧請したのが始まりとされています。地域では「お嶽さあ」と呼ばれ、春秋の例祭には祈願参拝する方々が多く訪れます。山頂に神社があることから、山の麓にあたる平川の海岸沿いにも遠くから拝むための神社があります。



烏帽子ヶ岳神社

③火の河原（製鉄遺跡）

和田の海岸などから運ばれた砂鉄で製鉄を行った場所です。周辺では鉄を溶かすための木炭を大量に確保することができました。ここで作られた鉄は、磯の集成館に運ばれたとされています。昭和 51(1976)年に閉校となった福平小学校の分校跡に、そのことを伝える看板があります。



火の河原

④権現ヶ丘（デバイの話）

標高 484m の権現ヶ尾は、木ノ下、玉利集落の人々が信仰の対象とし参拝する「オデバイ」が行われていた山です。山の八合目には仏像が安置され、6 月と 11 月の 13 日は権現詣でと称して盛大であったといわれています。しかしながら、現在は隣接するホテルの閉鎖に伴い立ち入りが出来ません。

⑤鬢石

高さ約 2 m の巨石のことです。大永 7（1527）年、島津貴久が島津実久の軍勢に追われ南薩方面に逃れる際、この石の場所に立ち寄りしました。そして、巨石のくぼみにたまった水で鬢のほつれを整えたことから鬢石と呼ばれるようになりました。



鬢石

⑥営林署跡（現ふるさと考古歴史館）

慈眼寺には陸軍省の軍馬育成所があったことから、関連の苗畑として開設されました。しかしながら杉や檜の苗畑としては不適地であったことから、昭和 29(1954)年に、谷山町の町有地と交換し、現在ふるさと考古歴史館がある場所に移設されました。

2. 里・集落・町のものがたり

谷山地区は、中世までは島津氏と勢力争いをするほどの豪族だった谷山氏の拠点でした。特に南北朝期には南朝方として活躍し、後醍醐天皇の皇子である懐良親王^{かねよし}を迎え入れ、南九州の南朝勢力を支えました。

その後、戦国期には薩摩半島の北と南の両方に勢力のあった薩州島津家が谷山の本城に拠点を置き、後に本宗家を継承する相州島津家に対抗しましたが敗れました。

江戸期には、かつて谷山氏も館を構えていた現在の谷山小学校周辺を中心に武士が居住し、鹿児島藩内でも大きな郷である谷山郷として繁栄します。江戸後期には人口 2 万人を超える大郷であり、農業や鉱業、さらに漁業や商業と多岐に渡って栄えました。鹿児島城下隣接地ということもあり、その郊外としての側面を持ち続けることになります。

明治時代に入り、明治 22(1889)年には谷山村、さらに大正 13(1924)年からは谷山町、そして昭和 33(1958)年から谷山市として人口を拡大させていきます。その中心が谷山地区でした。昭和 42(1967)年に鹿児島市と合併しますが、合併に至るまでは鹿児島市と協調しながら独自性を保ちつつ発展してきました。現在は鹿児島市ですが、つい 60 年前まで谷山市であったことが、現在の地域の文化財にも確実に影響を与えています。

① 谷山氏に關係する山城

谷山氏の祖である谷山信忠が谷山郡司職に命ぜられて以来、谷山氏は本城を居城としてきました。本城は別名愛宕山、または千々輪城とも呼ばれ、曲輪や空堀などが残っています。谷山氏の中でも隆盛を極めたのが隆信の頃で、谷山神社に祀られています。



本城跡

②軍馬育成所跡

明治 17(1884)年、陸軍省の管轄で慈眼寺入口付近の平野部に設置されました。敷地は 3 町歩あり、大尉の軍官が指導監督を行っていました。軍馬の糧秣^{りょうまつ}(食料)は谷山の

商人が数名で納入していたとされます。明治 39(1906)年、都城に移転しました。

③馬喰^{ばくろう}(家畜商)の多い地域と競馬場

谷山の海岸沿いの砂浜には競馬場があり、また農耕用や運搬用などに馬を飼育するための牧場もありました。そのため馬の売り買いをする馬喰がたくさんいた地域であったといいますが、その記録はあまり残されていません。

④各地の田の神

現在は住宅地に姿を変えた平野部にはかつて田んぼが広がっており、農業生産への祈りをこめ信仰された田の神が江戸期から建立されています。特に谷山地区は、田んぼが残る場所も少なく、田の神は公民館の敷地や公園の一角、住宅の片隅などに据えられています。



堂園の田の神



木ノ下公園の田の神(市指定文化財)

⑤玉利の鎌手踊り(市指定文化財)

棒踊りの一種で、鎌が使用されるのが特徴です。三尺の棒先に鎌が付き、六尺棒と激しく打ち合います。踊り手の後継者不足が深刻化したために、鹿児島情報高校の生徒たちが踊り手として、継承に尽力しています。

⑥阿弥陀堂(堂園集落)

現在のお堂は昭和 48(1973)年 3 月に建立されたものですが、近々区画整理によって解体されます。中に安置されている石仏は阿弥陀像として信仰され、明治 2(1869)年頃から堂園集落の人々によって大切にされるようになったと伝わります。古老によると、火の神または疫病を防ぐ神として信仰されていたようです。



阿弥陀堂

⑦田辺航空工場跡

現在は学校や住宅に変わり工場の痕跡はありませんが、太平洋戦争中、航空関係の部品製造を行う工場がありました。もともとは田辺鉄工所でしたが、昭和 18(1943)年から海軍関係の飛行機胴体などを秘密裏に製造していました。空襲被害も大きく、戦後は農機具などを製造する工場に転用されました。

⑧森永工場跡

昭和 15(1940)年、田辺集落に練乳やアイスクリームなどの乳製品を製造する森永乳業の工場が誕生しました。昭和後半まで工場が稼働していましたが、地域の再開発によって現在は工場の痕跡はありません。

⑨松崎の町

江戸期の谷山郷は浦町として漁港と隣接する商業地でした。松崎には商家も多く、「かんべどん」「次郎八どん」など呼び名のある店もあり、醸造業や谷山名物のじゃんぼ餅を売る店などもありました。また麓郷士が家計を助けるために染物屋も営む「平井どん」や「吉利どん」の店もあったといえます。現在でも松崎には石蔵などが残り、当時の繁栄ぶりがうかがわれます。

⑩谷山の本町（十字屋・じゃんぼ餅など）

江戸期の谷山郷の町人町は浦町としての松崎町が中心でした。その松崎町の北側の本通り沿いに繁栄したのが本町です。明治期以降は、谷山村役場も近いことから銀行なども設置され、名物じゃんぼ餅の店なども登場しました。また、現在は鹿児島市街地の中心にある楽器店・十字屋も谷山が発祥です。

⑪鹿児島情報高校の歴史

昭和 30(1955)年に専門学校として現在地に開校され、昭和 35(1960)年から鹿児島電波工業高等学校となり、さらに昭和 38(1963)年から鹿児島電子工業高等学校に校名が変更されました。さらに平成 3(1991)年から鹿児島情報高校として、全国でも個性的な情報系の教育を行う高校として、様々な人材育成に取り組んでいます。地域活動も盛んで、生徒たちは伝統行事の復活や鹿児島の地域資源の魅力を伝える発信活動なども行っています。

⑫豊臣秀頼伝説（正八幡神社）

大坂夏の陣から逃れた豊臣秀頼が谷山の地に居住したという伝説は、江戸期からありました。秀頼が住んだとされる集落名は木ノ下であり、秀頼の父豊臣秀吉の旧名・木下藤吉郎を思わせ、豊臣家との関連をさらに匂わすものになっています。秀頼の墓とされる宝塔も集落にありますが、形状は江戸時代よりも前のものと思われ、時代的にずれがあります。慈眼寺公園内には、秀頼を祭る正八幡神社の石祠もあります。



正八幡神社

⑬麓の石垣や地頭仮屋跡

江戸期は鹿児島藩の直轄領であった谷山郷ですが、行政機能の中心が現在の谷山小学校の場所にあった地頭仮屋でした。敷地は現在よりも木々が生い茂る場所であったと伝わります。地頭仮屋の痕跡はありませんが、校庭にそのことを示す石柱があります。また周辺には谷山の武士が居住した麓の雰囲気伝える石垣などもあります。

⑭谷山氏の館跡

現在の谷山小学校や鹿児島市役所谷山支所のあたりは、永田川と木之下川に挟まれ、周辺より少し高い地形です。この地形を利用して谷山氏が館を構えていたとされる遺構が発掘されています。有事の際には慈眼寺駅近くの本城を利用しましたが、平時は海岸近くのこの地が拠点であったと想像されます。



谷山氏館跡付近

⑮伊佐智佐神社のほぜ祭

伊佐智佐神社は平安末期には建立されたとされ、谷山郷の総鎮守でした。御祭神は伊弉諾尊^{ににぎのみこと}などで、現在の和歌山県の熊野本宮社・新宮社から勧請されたと伝わります。秋の例祭であるほぜ祭は、昔から谷山の大切な行事の1つで、浜下りともいいます。神輿や武者行列などがかつての港であった久津輪崎^{くつわぎき}に参り、その後谷山旧街道を進みます。



伊佐智佐神社

⑯是枝柳右衛門の碑

谷山の町人町である松崎に生まれたとされています。家が貧しく一時は家の再興の

ために大隅半島の高山などに移り住みました。32歳で松崎に戻り、地域の子弟教育に熱心に取り組みました。勤王の志篤く、その後は京都で全国の志士らと接触。さらに近衛家から衣冠束帯いかんそくたいを与えられました。しかし、伏見の寺田屋事件にて捕縛され、屋久島に配流となり、その地で亡くなります。誕生地には記念碑が建立されています。

⑰大久保・木ノ下の河童話

木之下川沿いにあたる両集落には河童の出没伝説があります。詳細は不明で、特に木ノ下集落は現在では住宅地となっていることから、目撃談は無いようです。大久保集落には、出没するという川に水神碑があります。

⑱田辺の森殿

鹿児島には「モイドン」と呼ばれ、樹木などが保存された神聖な空間を大切にする習慣があります。現在の田辺集落は区画整理などによって住宅街となったことから残っていませんが、かつては森殿があり、集落の信仰の対象であったとされています。

⑲永田川の蛇行

春山町に源流のある永田川は、山田町や中山を流れ、上福元町から南栄方面を河口として流れています。上福元町付近では、現在は南東方向に向かって真っすぐな流路ですが、かつては蛇行していたといえます。川の蛇行は道の在り方にも反映されていましたが、これからの区画整理事業によって道路も大きく変わり、流路跡も分からなくなるものと思われます。

⑳徳組（葬式の制度）

集落によって違いがありますが、谷山には「とっぐん」と呼ばれる葬式の際の互助制度がありました。葬儀屋がない時代は、葬式を出さなくてはならなくなると大勢の人手が必要でした。また土葬でしたので、墓穴掘りも必要でした。それらに協力するのが徳組でしたが、現在は行われなくなりました。

㉑谷山校区駅伝大会

鹿児島市に合併する以前、谷山市の小学校校区対抗の駅伝大会が行われていました。校区の代表者による駅伝大会で盛大だったそうです。また当時を知る方によると福平校区と中山校区が強かったそうです。

②②谷山ふるさと祭

令和 6(2024)年に第 45 回目の開催を数えた谷山ふるさと祭は、市南部最大の祭として地域の人々に親しまれています。谷山本通を歩行者天国にして数々の踊り連が登場します。かつては鹿児島市街地で行われるおはら祭と同日に開催されていましたが、現在はその前の週の休日に開催されています。

②③谷山小学校の講堂

昭和 8 (1933)年に竣工した谷山町を代表する巨大な講堂でした。地域の人々の思い出にも残っており、谷山市の大きな行事もこの講堂で開催していました。老朽化によって解体されましたが、現在の体育館が当時の面影を伝える外観になっています。



谷山小学校体育館

②④野頭公民館

昭和 7 (1932)年に国と県が資金を出して整備された「影野ちさん共同飼育所」を利用した建物が、現在の野頭公民館です。影野とは影原と野頭の頭文字を採ったもので、ちさんとは養蚕の施設のことです。公民館の地下には養蚕のための保温施設が残っていて、この建物で養蚕が行われていたことが分かります。公民館の敷地内には、養蚕事業のことを伝える記念碑もあります。老朽化した建物は改修され施設も保存されています。



野頭公民館の記念碑

②⑤松林寺跡（松崎町）

松崎の町人町と木之下川が蛇行した地点は、現在公園になっています。目の前を谷山旧街道が通り、伊佐智佐神社の浜下りの行列も通行する道でもあります。その公園は江戸時代に松林寺という寺院があったとされ、公園にはそのことを伝える石仏があります。

②⑥そば切り踊り

伝承の経緯の詳細は不明ですが、現在のような「そば切り踊り」になったのは戦後に復活してからです。元々は大隅半島から伝わったともいわれています。そば粉を練り上げてそばができるまでの様子を表現したユーモラスな踊りです。ちなみに谷山はそばも名物でした。

3. 海のものがたり

谷山地区は、海岸線が南北に長く、南は喜入地域に接しています。こうした海岸線は、昭和 42(1967)年まで鹿児島市とともに谷山市として鹿児島県全体の産業振興に寄与するように工業団地等への埋め立てが盛んに行われ、産業道路や谷山港、工業団地や飼料コンビナート群が誕生しました。しかし、こうした開発以前は、豊かな鹿児島湾の恵みを受容する漁村としての顔もありました。現在は地名が残るのみですが、塩づくりも盛んに行われていました。水産業の町としての特徴は、集落の習慣や信仰などにも反映されており、それぞれの地域で継承され、当時を知る人々に思い出として記憶されています。

①和田干拓

和田干拓は江戸初期となる万治元（1658）年に開発されたのが始まりです。その後台風などの被害を度々受け、その度に修理が行われてきました。明治に入ると、明治 22(1889)年に島津家から開発の権利を譲り受けた民間人らが堤防工事などを始めました。県営事業として昭和 6 (1931)年に竣工しました。現在和田中学校があるあたりですが、現在は住宅地になっています。

②新地集落（水神碑・路地・十五夜行事・塩祝い）

谷山漁港に隣接していた新地集落は堤防沿いにあり、細い路地が入り組むまちなみです。公民館には水神も祀られ、前の広場では十五夜行事なども行われていました。また正月 2 日に、町内会の行事として集落内の家々に塩を渡し、お金を受け取る「塩祝い」の慣習も残っています。益金は集落の活動費になるとのことです。こうした漁村であった頃の名残が新地集落には伝わっています。



新地公民館の水神

③谷山漁港跡

谷山は約 16km の海岸線があり、鹿児島湾という豊かな内湾に接することから漁業の町として栄えました。江戸後期の地誌「三國名勝図会」にも谷山の産物として鯛、しび(キハダマグロ)、ぶり、さば、いわし、たこなどが挙げられています。木之下川の河口あたりに漁港があり、そこに隣接するように水揚げ場もありました。近年まで



谷山漁港跡

漁協の建物が残っていましたが、現在は取り壊されました。

④つきあげ屋

漁業の町だっただけに、現在でも谷山名物として売られています。特徴は骨と身と一緒に練り混ぜ、灰色に近い色をしている点です。

⑤一口蛸

一口蛸とは真蛸の稚蛸のことで、長さ3cmほどの小さい蛸です。2月から4月にかけて成長し、海岸部の岩礁などで捕獲が始まります。谷山の海岸では一口蛸が捕獲され、特においしいと評判でした。しかし、現在は海岸部が埋め立てられました。

⑥行商

漁業のまちを支えたのは、人口密集地である鹿児島市街地に新鮮な魚を売りに行く女性たちでした。昭和10(1935)年頃には、「駄売り」と呼ばれる行商に従事する人が300人ほどいたとされ、市街地とつながる路面電車などに乗り、得意先に新鮮な魚を届けました。海岸線の埋め立てとともに漁業が衰退し、車での往来が容易になると行商の姿も見られなくなりました。

⑦埋め立てによる海岸変化

昭和42(1967)年に鹿児島市と谷山市が合併しました。それ以前にも鹿児島市から谷山市に向かって続く海岸線を埋め立てて産業用地にする計画はありましたが、本格的に実施されるようになったのが昭和40年の初めでした。これによって国道226号のバイパスとしての産業道路が誕生し、海岸周辺の地形や風景は大きな変貌を遂げました。昭和40年代以前から谷山に住む人々にとっては、目の前にあった海岸は思い出として語られています。

⑧七ツ島（貝堀）

現在は鹿児島市街地と指宿方面を結ぶ幹線道路に変化しましたが、かつては光山海岸と呼ばれる砂浜が広がっていました。その海岸には七ツ島の景勝地として親しまれ、名前のおり大小7つの島がありました。春は潮干狩りに訪れる方が多く、夏は海水浴客で賑わいました。

現在は砂浜が埋め立てられ、7つの島の中でも一番大きな父島だけが残されています。



父島跡

⑨塩窯跡

地名にもあるように、谷山の海岸では盛んに製塩が行われていました。明治期には和田干拓地を中心にして行われ、小松原では昭和中期頃まで行われていました。塩を焚くための薪は山間部から運ばれ、海岸には塩を炊くための窯があったそうですが、現在はどこも残されていません。

⑩塩釜神社

海岸線の長い谷山では、かつて製塩が盛んに行われていました。塩焚きをする人々の信仰を集めていたのが塩釜神社です。御祭神は塩土老翁^{しおつち おじのみこと}命で、製塩に限らず漁業関係者からも航海安全の神として信仰されています。かつては、より海岸に近い場所にありましたが、宅地造成などもあり昭和42(1967)年に現在地に移転されています。

【谷山地区の主な未指定文化財リスト】

1. 山の物語	
1	錫山鉾山
2	烏帽子ヶ岳
3	火の河原（製鉄遺跡）
4	権現ヶ丘
5	鬢石
6	営林署跡
2. 里・集落・町のものがたり	
7	谷山氏関連の山城
8	軍馬育成所跡
9	競馬場跡
10	各地の田の神
11	堂園集落の阿弥陀堂
12	田辺航空工場
13	森永工場
14	松崎の町
15	谷山の本町
16	岩屋不動明王
17	鹿児島情報高校
18	豊臣秀頼伝説
19	麓の石垣や地頭仮屋跡

2 0	谷山氏の館跡
2 1	伊佐智佐神社のほぜ祭
2 2	是枝柳右衛門の碑
2 3	大久保・木ノ下の河童話
2 4	田辺の森殿
2 5	永田川の流路跡
2 6	徳組
2 7	谷山校区駅伝大会
2 8	谷山ふるさと祭
2 9	谷山小学校の講堂
3 0	野頭公民館
3 1	松林寺跡（松崎町）
3 2	そば切り踊り
3. 海のものごたり	
3 3	和田干拓
3 4	新地集落
3 5	谷山漁協跡
3 6	つきあげ屋
3 7	一口蛸
3 8	行商
3 9	埋め立てによる海岸変化
4 0	七ツ島
4 1	塩窯跡
4 2	塩釜神社